関連学会印象記

第57回日本胸部外科学会定期学術集会を終えて

小松幹志*

第57回日本胸部外科学会定期学術集会を札幌医科大学医学部第二外科 安倍十三夫教授会長および森下清文事務局長の下，札幌市のロイトン札幌・札幌メディアパークスピカ両会場で，2004年10月20(水)～22日(金)の3日間にわたり開催させていただきました．初日はあいにく台風23号の日本上陸等で九州地域からの出席者に多少支障をきたしましたが，2日目以降は台風も日本列島から遠ざかり，最終の有料入場者数も2,500名を越え，関係各位のご支援，ご協力にて無事に定期学術集会を，大変盛会裡に終えることができました．

2004年度の本学会定期学術集会のテーマを「胸部外科学における新たなる開拓と更なる飛躍」(New Frontiers and Great Leaps in Thoracic Cardiovascular Surgery)と致しました．今回の学術集会の応募演題数は，1,378題で，この内，798題を採択し，採択率は57.9%でした．学会場は第1～6会場と設定し，ビデオとポスター会場(第5・6会場)を札幌メディアパークスピカといたしました．

学会前日には学会の特別企画1として，Baue AE教授，長田博昭教授の司会で，英語による「世界各国における胸部外科領域の卒後専門医トレーニングの現況と将来の展望」(International Post Graduate Educational Program)と題し，米国，英国，仏国，独国，カナダ，中国ならびに日本の7ヵ国からの代表者によって発表と討論を行いましたが，日本の専門医制度が立ち遅れており，参加各国から学ぶものが多かった事と思います．特別企画2としては，三浦雄一郎先生(プロスキーヤー・獣医師)による「限界への挑戦 新たなる開拓と更なる挑戦」と題してのご講演で，70歳で再度中国側からの登頂に挑戦するため日頃からトレーニングに励むなど，更なる挑戦に燃える姿勢に対し会員一同が深い感銘を覚えたことと思います．

今回，胸部外科の3分野の共通テーマ演題として「胸部外科領域における分子生物学の新たなる開拓と役割」，「心臓および肺移植の開拓と飛躍に向けて」，「胸部外科が直面する諸問題とその克服への提言」，およびビデオシンポジウム「胸部外科領域における鏡視下手術の実際」の4題を掲げ，その他シンポジウム4題，パネルディスカッション8題，ビデオシンポジウム6題，ならびに会長要望演題4題，また優秀学術集会賞として，演題査読委員による審査で，1～5号で満足の点数が得られた心臓・大血管分野2題と肺外科1題を選出し，学術集会の第3日目に発表していただき，学術集会を代表して表彰させていただきました(**図1**)．

招請講演では，8題をそれぞれHetzer R先生(独)，Coselli JS先生(米)，Yim APC先生(中)，Jamieson SW先生(米)，Cooper DKC先生(米)，DeMeester SR先生(米)，Haverich A先生(独)およびBrown JW先生(米)にお願いいたしましたが，それぞれ大変感銘深い講演でありました．また教育講演は6題であり，井村裕夫先生，Baue AE先生，Chiu CJ先生(カナダ)，Doty DB先生(米)，Damiano RJ先生(米)，ならびにNuss D先生(米)から優れた内容のご講演を賜りました．さらにパネルシンポジウムの基調講演としてPuskus JD先生(米)，Bolling SF先生(米)，岩城裕一先生，および松田晋哉先生に発表とシンポジウムに参加していただき，貴重なご意見を頂戴いたしシンポジウムを盛り上げていただきました．2日，3日目の早朝(7:15～8:00am)にはMeet the Expertを企画しましたが，早朝のプログラムにも拘らず，多くの会員にお集まりいただきBackberg GB先生(米)，Geha AS先生(米)，Cooper DKC先生の各先生方に

*札幌医科大学医学部外科学第二講座

Presented by Medical*Online

図1

ご講演をしていただき，熱心な討論が行われました．その他 Lancheon Seminar として Raman JS 先生(米)をはじめ 15 名もの先生方にご講演を賜り本会にもひけをとらないような活発な意見交換が見られました．今回海外より講演者として参加していただいた人数は 24 名を数えております．予定していた国内外の演者の先生方が一人も欠席することなくこの札幌の地でご講演いただけたことは非常に喜ばしいことであり，安倍会長含め事務局一同この紙面をお借りして心より厚く御礼申し上げます．

一般口演ならびにポスター発表も各会場それぞれのエキスパートが集まり活発な討論がなされていたことは言うまでもございませんでした．また今回の学術集会の一つの試みとして，第 5 会場に設定させていただいた札幌メディアパークスピカでのビデオセッションでは超大型のテレビジョン画面を用い，より鮮明なそしてクオリティーの高い画像が提供できたと思っております．

学術集会 2 日目には，安倍会長が小松作蔵第 46 回本学会会長に司会をお願いいたしまして，会長講演「私が選んだ道－胸部外科学」(My Life Works in Thoracic Cardiovascular Surgery) と題して，39 年間にわたる日本胸部外科学会との関わり，また胸部外科医としての豊富な経験と，更に将来に向けて本学会と若い胸部外科医へのメッセージと提言をいただきました(**図2**)．

図2

学会期間中，医薬・機器展示に参加されました各協賛企業の皆様にもこの場を借りて厚く御礼申し上げます．

最後になりましたが，学会開催までの準備期間が一年足らずと短く，至らぬ点が多々あったかと存じますが，会員の皆様にとって実りの多いそし

Presented by Medical*Online

図3

て印象に残る学術集会であったならば，教室にとってこの上ない喜びとなります．また本学術集会が無事成功裡に終えることができました事は，学会誘致を始めて以来，安倍教授ならびに教室を陰になり日向になり応援して下さった諸先生方そして学会運営に携わった関係各位の皆様のおかげであり改めて心より感謝と御礼を申し上げます（**図3**）．

Presented by Medical*Online